

令和7年度学校評価自己評価 【最終】

神杉小学校

学校教育目標 「確かな学力と豊かな人間性をもち 自ら伸びる子どもの育成」

自ら学ぶ

認め合う

元気

達成度	達成値	評価	A ≥ 100	80 > C ≥ 60
	×100		100 > B ≥ 80	60 > D
	目標値			

- A 適切である
- B 概ね適切である
- C あまり適切でない
- D 適切でない

	中期経営目標 【担当部】	具体的な取組・方策	評価指標	評価 状況	最終評価 達成状況	改善策	学校関係者評価 (評価) (記述)
知 確かな学力	主体的に学び に向い、自分の 考えを高め、伝えよう とする子どもの 育成を図る。	・「やるゾウタイム」の徹底やタブレットドリル等を効果的に活用し、基礎・基本の学力の定着を図る。 ・ICTを効果的に活用した授業づくりを深化させる。	・三次市学力到達度検査において、(全国平均+7点以上)を60%以上にする。① ・単元末テスト(国語・算数)80点以上の児童の割合を70%以上にする。②	B	①三次市学力到達度検査で全国平均+7点以上の児童の割合:51.3%(国50%、社44.1%、算60.3%、理50.8%) 算数は達成。他の3教科は達成できなかった。 ②単元末テスト80点以上の児童の割合:75.3%(国77.5%、算73%)70%以上は達成した。	・三次市学力到達度検査の結果分析から改善計画を作成し、指導の重点化を図る。 ・学力補充、ドリルタイムを全校で取り組み、全職員で児童の実態に合った指導を行う。 ・基礎問題だけではなく、様々な問題に取り組み、問われていることを理解して課題を解決できるようにする。 ・タブレットドリルを効果的に活用した基礎・基本の学力向上の取組を継続する。	B ・目標値には若干達成できなかったが、事象を前向きにとらえられ対応策も構築され評価できる。今後の成果が楽しみである。 ・学力評価で、平均値のみとなっているが、母集団の評価としては、ばらつき度も必要と思われる。 ・三次市学力到達度検査において、5年生の点数が低かったのでわからない問題について6年生までか、6年生の始めに理解できるようにしてほしい。 ・読書は高学年について貸出冊数が増えるよう工夫してほしい。 ・自然や事実に対する関心興味を引き出す工夫や指導力について日々研鑽に努められるよう希望します。 ・理科は創意工夫によって、人生を豊かにするために必要な教科だと思えます。
		・研究主題に迫る単元開発を図る。 ・達成された姿の明確化及び共有を図り、取組を行う。	・各教科等との関連を図り、各学年1単元の単元開発を行う。 ・年間2回の児童意識調査を行い、「主体性・表現力・協働性」の肯定的評価を3p以上にする。	B	・探究的な学習になるよう探究のサイクルを意識した単元開発を行った。授業研究を通して、それぞれのサイクルで大切にしたい点についても明らかにすることができた。 ・肯定的評価「主体性」89.3%、「表現力」83.3%、「協働性」86.2%。6月の意識調査から数値の変化はないがどれも高い。もっとも否定的な項目を選択する児童が0名となった。児童の自己肯定感の高まりがみられる。	・来年度は探求のサイクルにおける児童の目指す姿の具体的を全職員で共有し、そのための支援等について明らかにしていく。 ・児童が自己についてメタ認知できるようふりかえる活動や形成的評価を大切に。自分の良さに気づけるようにするために他者評価も積極的に取り入れていく。	
		・読書活動を充実させ、読書に親しむ機会を多く設け、読書量を増やす。	・「本を読むことは楽しい」児童の割合を80%以上にする。	A	低学年を中心に授業での活用や読み聞かせを行い、読書量が増えている。貸し出し冊数は昨年度を超えた。図書委員会もおみくじや貸し出し冊数の多い児童を放送で全校に伝えるなど、新たな取り組みを工夫し取り組むことができた。	今後も環境整備や図書委員会の活動の充実を通して読書の楽しさを味わえるよう取り組んでいく。また、三次市立図書館の司書と連携を図り、専門的な視点をヒントに環境を整えていく。	
徳 豊かな心	友だちの良さを認め合い、 かかわり合って前向きに行動できる 子どもの育成を進める。	・自己選択・自己決定の場を設定し、児童に様々な場面でチャレンジする経験をさせる。 ・協働することの大切さを実感するため、児童会や縦割り班活動の充実を図る。	・毎学期の振り返りシートにおける肯定的評価 ① 学習・特別活動等において、自己選択・自己決定を進んで行った。80%以上 ② 友だちと(他学年の人)協働して縦割り班活動に取り組んだ80%以上	A	①中間評価より肯定評価は2.9%増加した各教科の学習や家庭学習において、自己選択・決定する場を設定してきた。 ②縦割り班活動での掃除では、高学年が掃除分担を調整し、高学年と低学年が協力し合う場面が多く見られた。縦割り班遊びでは、低学年が楽しめるような内容を工夫していた。	・引き続き、学習や活動場面において、自己選択・自己決定する場を意図的に設定したり活動後に自己評価させたりする取組を継続していく。 ・ふれあい班遊び等、掃除以外の縦割り班活動を児童に計画的に企画させるよう働きかけていく。	B ・毎学期の振り返りシートによる肯定評価と、協働して縦割り班の活動は、目標達成 ・友達の良いところの発見伝達、自ら進んでの挨拶は目標未達成。 ・ブレンストーミングなど、いわゆる人の意見を否定しないミーティングなどを活用し、友達のよいところ発見や、挨拶の大切さなど徐々に習得していけばよいのでは。 ・自分たちで考え行動する場面が多かったのはよかった。 ・行事や授業参観時によくあいさつができていた。 ・不登校児童0名を目指してがんばってください。 ・人と交わることの楽しさをぜひ味わうことのできる学校づくりをめざしてください。
		・スマイルカードの取組を充実させ、1人1人の良いところを認め合う活動を充実させる。 ・自分から進んであいさつができるようにする。	・毎学期の振り返りシートにおける肯定的評価 ①スマイルカードに友だちのよいところを見つけて書いた。 ②登校時や来客の方に対し、自分から進んであいさつができる。80%以上	B	①低学年児童の肯定評価は90%だったが高学年児童の肯定評価は24%だった。行事活動以外の日常的な働きかけが弱い部分があった。 ②中間評価より肯定評価は3.6%減少した。児童会を中心としてあいさつ運動に取り組んだ。日常的な働きかけが弱い部分があった。	・行事と関連付けて書く視点を明確にしたり書かれたカードの掲示を工夫したりして、取組を日常的に意識させる。 ・あいさつについては、自己評価だけでなく相互評価を取り入れ、継続的に働きかける。	
体 たくましい体	体力の向上と生活習慣の改善を図る。	・運動朝会の内容や方法を工夫し、楽しんで基礎体力を向上できるようにする。	・体づくりに関するアンケートの肯定的評価80%以上にする。	A	「体を動かして運動することは好きですか」肯定的評価85.6% 前回のアンケートより2.2%上昇した。	・体育の授業の工夫や健康委員会による運動朝会の企画運営の充実、休憩時間の外遊び奨励を継続して行っていく。	B ・体づくりにについては目標達成。 ・元気に運動場で体を動かしている光景を見ても裏付けられる。 ・メディア使用ルールが身につくようにチェック回数を増やしてほしい。 ・学校では休憩時間によく外に出て遊んでいるように見かけます。
		・「お弁当の日」の取組を工夫し継続する。 ・自分の生活をコントロールする力を育てる。	・生活リズムチェックで、目標を達成できる児童の割合を70%以上にする。(高学年)	A	高学年のメディアのルール目標達成率71.6%(1月実施) 前回実施(9月)より0.8%上昇した。	・規則正しい生活習慣(早寝)の奨励、上手なメディアとの付き合い方についての啓発を継続して行っていく。	
開 かれた 学 校	信頼と協働に 支えられた地域 とともに成長する 学校づくりを 推進する。	・学校HPや各種通信などで積極的に情報発信を行うとともに、保護者との連携を主体的に進める。 ・学校の相談機能を充実する。(迅速で誠実な組織的対応) ・業務改善をさらに進める。	①保護者の肯定的評価[3・4]を90%以上とする。 ②職員の超過勤務月45時間以内を100%にする。	A	①HPで日々の児童の様子を毎日発信できた。各種通信においては、地域・保護者と協働して神杉の子を育てるという視点で、児童の主体的な姿を画像で紹介していくことに重点をおいて発行した。 ①生徒指導事案や児童・保護者からの相談に対しては、担任だけでなく、組織で共有し対応に努めた。また、毎週金曜日に児童実態交流を行い、学校全体で児童を見守る体制を整えた。【保護者アンケート「学校の様子がわかる」肯定的評価98.6%「教職員への相談のしやすさ」95.7%】 ②教育の充実に向け、衛生委員会等を定期的実施し教職員の健康状態等について共有し、職場環境や働き方改革につながる業務改善について検討した。6時退庁(水曜日は5時半)を意識して、協働的・計画的に仕事を行うなど職員のタイムマネジメント力も向上している。【超過勤務月45時間以内100% 平均18時間】	・今後も積極的な情報発信に努める。 ・学校の相談機能の充実を図る。(相談窓口の明確化、組織的対応の徹底、未然防止や早期発見・早期対応の迅速化) ・今後も、限られた時間を教師の専門性を高めたり、授業改善や児童に接する時間を確保したりするものとなるよう、全教職員で業務を見直す等、業務改善を推進していく。	A ・保護者とのコミュニケーションづくりに、HPや、各種通信をしっかりと行われている。特に、子どもの主体的な姿が紹介され、リアルな姿が確認されることは保護者にとってもありがたいのでは。 ・職員の超過勤務についても管理されている。 ・1/2成人式の発表を見て、今までの生活の中で自分の分析、今後の向き合い方、そして家族には感謝の意を表現していた。良いことと思う。 ・プレゼン用でモニターを利用して、ずいぶん時代が変わったものだと感心した。 ・出来れば、モニターをもっと活用し、時々正面を見て、発表出来たらさらに良いのでは。 ・HPでの日々の配信で学校の様子が見られてよかった。 ・CSの取り組みで地域の方と一緒に行事が行えてよかった。 ・運動会・田植え・ふるさと祭りなど、来年度も楽しくできたらよいです。 ・保護者との連携についてはアンケートの中にも信頼関係ができてきているように思われます。又、地域との連携もかなりうまくいっているように思います。
		・コミュニティ・スクールとして、小中・地域がさらに連携した取組を進める。	・「子どもの学び応援団」の取組を年間10回以上。 ・地域人材を活用した学習活動を各学年:年間3回以上。	B	・神杉自治振興会との連携により、ネットワークの構築が図られている。CSの活用が教育の質の向上につながった。 ・地域の教育資源を活かした単元開発を行い、地域人材の活用を有効的に図ることができた。 【1月末 応援団の取組19回 参加数29人】 【1月末 1年2回2年2回3年7回4年3回5年5回6年5回】	・来年度も、地域・保護者と目標の共通認識を図り、児童の教育活動の充実のために、地域人材の活用を有効的に図っていく。 ・応援団お知らせは効果的であるが、調整に時間がかかる。フォーム等を活用し、持続可能な取組にしていく必要がある。	

新しい取組 レベルアップ